

在籍校名
職・氏名

福岡県立小郡特別支援学校
教諭 平井 由美恵

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 知的障がいのある生徒Aが他者のアドバイスを基に自身を高めようとする姿を目指した自立活動の指導－PDCAサイクルと自分ノートの活用を通して－

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

(7) 対象生徒について

本研究の対象生徒Aは、知的障がい特別支援学校高等部第○学年に在籍している。生徒Aは誰に対しても自分から挨拶をしたり、礼儀正しい態度で接したりすることができる。一方、教師が「もっと〇〇した方がいいよ」とアドバイスをしても、考えを曲げずに自身で判断して行動することが多く、相手の気持ちを考えたり、周囲の状況に合わせたりして行動することが難しい。将来一般就労を目指している生徒Aにとって、他者のアドバイスを受け入れながら行動を改善することは、自身を高めるとともに良好な人間関係の形成につながると考える。

(4) 諸検査から

WAIS－Ⅲ検査、S－M社会生活能力検査、生活適応支援チェックリストを実施した。それぞれの結果を図1、表1、表2に示す。初めに、WAIS－Ⅲ検査では、「言語理解」と「知覚統合」が高いという結果から、話したり聞いたりすること、イラストや図形を基に視覚的な情報を理解することが得意であることが分かった。次に、言語性検査の結果では、「単語」と「理解」の差が大きいという結果から、言葉は覚えているものの実生活と関連付けて理解することが苦手であることが分かった。S－M社会生活能力検査では、「コミュニケーション」と「集団参加」が低いという結果から、相手の立場や気持ちを考えて話すことや、集団の中で他者と共に行動したり意思疎通を図ったりすることを苦手としていることが分かった。これらのことから、生徒Aが他者のアドバイスを受け入れることが難しい背景には、言葉の意味を理解する等の認知面の困難さや、他者からの働き掛けを受け止めて応じたり、適切な行動をとったりする等のコミュニケーション面の困難さがあると考えられる。また、対人関係における成功体験が少ないことも背景の一つだと考えられる。

※
WAIS－Ⅲ検査の結果

図1 WAIS－Ⅲ検査の結果

表1 S－M社会生活能力検査の結果

※
S－M社会生活能力検査の結果

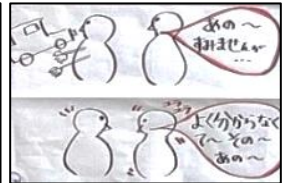
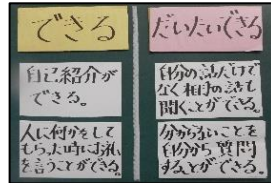
表2 生活適応支援チェックリストの結果

					4:できる 3:大体できる 2:少し難しい 1:難しい					
	項目	4	3	2	1	項目	4	3	2	1
1	人に何かしてもらった時に、お礼を言うことができる。	○				13 感情のコントロールができ、落ち着いて過ごすことができる。		○		
2	他の人と協力しなければならない場面で、協力することができる。		○			14 心が落ち着かないときやストレスが溜まったときに、落ち着ける方法をとることができる。			○	
3	相手と意見が対立した時に、ゆずることができる。		○			15 自分の障がい特性(○は得意だけど○は難しい)を知ったうえで行動できる。			○	
4	禁止されていることを守ることができる。			○		16 係の仕事や任された仕事に責任をもって取り組むことができる。		○		
5	相手からの誘いを断るときに、早めに伝えたり言い方を考えたりすることができる。		○			17 自分の話だけでなく、相手の話も聞くことができる。		○		
6	相手の話を最後まで聞くことができる。			○		18 分からないことを自分から質問することができる。			○	
7	相手の気持ちを考えて話すことができる。		○			19 人前で話をするすることができる。		○		
8	場にふさわしい言葉遣いができる。			○		20 自己紹介ができる。	○			
9	他者と適切な距離をとることができる。		○			21 自分の長所と短所を説明できる。			○	
10	冗談を聞いて受け流したり、笑ったりすることができる。		○			22 他の人の長所を見つけることができる。			○	
11	自分で時間を考えて行動することができる。		○			23 自分にとって困難なこと(難しいこと)を説明することができる。			○	
12	自分の気持ちや考えをうまく相手に伝えることができる。		○			24 自分にとって必要な支援(手助け)を相手に伝えることができる。			○	

最後に、自身の対人関係に関する評価を行うための生活適応支援チェックリストの結果から、生徒Aは、「4できる」の項目に二つの丸を付けたが、教師が同じ項目で生徒Aの評価をしたものと比較すると少ない結果であり、自信の無さがうかがえた。そこで、生活適応支援チェックリストの「3大体できる」から「4できる」へと丸が移動することを視覚化して提示することで、生徒Aの学習意欲を引き出すとともに、他者のアドバイスを基に自身でできるようになった経験を積み重ねることで、他者のアドバイスは自身にとって役に立つことを理解できるようにする。

(ウ) 試行授業から(自立活動「自分ノートを作ろう」全3時間)

試行授業では、自分ノートの目的や使い方の理解、生徒AがPDCAサイクルに基づいた学習活動における、チャレンジシートの活用方法の理解を把握するために実施した。自分ノートの目的や使い方の理解は、生活適応支援チェックリストを基に、項目カードを用いて説明し、自分ノートの目的や使い方をイメージできるようにした(資料1)。「自分ノートを使う目的は何ですか。」の発問に、「できなかったことをできるようにする。」と述べたことから、自分ノートの目的や使い方の理解につながったと考える。生徒AがPDCAサイクルに基づいた学習活動における、チャレンジシートの活用方法の理解は、生徒Aが現場実習を控えていたことから、生活適応支援チェックリストの「分からないことを自分から質問することができる。」の項目を基に単元を設定した。Pでは、



資料1 項目カード

資料2 尋ね方のイラスト

尋ね方のイラスト(資料2)を見て目標を設定し、Dでは、作業で道具の使い方を尋ねる場面設定の中で質問文を考え、尋ねることができた。Cでは、アドバイスを基に尋ね方に関する新たな課題を理解し、Aでは、更に良くなる改善策を考えることができた。このことから、PDCAサイクルに基づいた学習活動におけるチャレンジシートの活用方法についての理解につながったと考える。

イ 研究の目的

知的障がいのある生徒Aが他者のアドバイスを基に自身を高めようとする姿を目指すために、PDCAサイクルと自分ノートの活用についての有効性を明らかにする。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

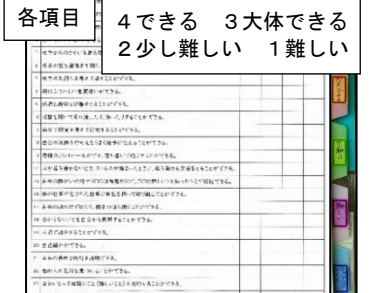
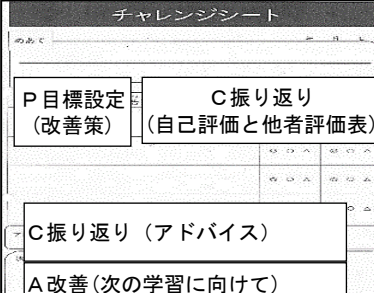
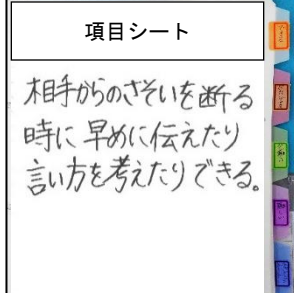
(7) 主題について

他者のアドバイスとは、生徒Aの発言や態度に対しての評価や助言のことである。ここでの他者は教師とし、生徒Aの発言や態度に対して評価や助言を行う。自身を高めようとする姿とは、生徒Aが

自身の課題を改善するために目標設定し、目標を意識して行動するとともに自身の行動を振り返り、更に改善しようとする姿である。他者のアドバイスを基に自身を高めようとする姿とは、生徒Aが自己評価と他者評価表の各々の評価を比較し、教師によるアドバイスを受け入れ自身の行動を更に改善しようとする姿である。

(イ) 副題について

PDCAサイクルとは、P目標設定、Dロールプレイ、C振り返り、A改善の四つの流れを繰り返すことである。ここでのPは、生徒Aがイラストや動画等を用いながら自身の課題を理解し、目標設定する場面、Dは、実生活と関連付けたロールプレイの中で、生徒Aが目標を意識して行動する場面、Cは、生徒Aがタブレット型端末やチャレンジシートにある自己評価と他者評価表等を用いながらできたことや課題を振り返る場面、Aは、C振り返りを受けて、生徒Aが更に良くなる改善策を考え、次の実践に生かす場面のことである。自分ノートとは、①生活適応支援チェックリスト、②チャレンジシート、③項目シートをとじ合わせたノートのことである(資料3)。生活適応支援チェックリストとは、自身の対人関係に関するチェックリストである。自己評価や他者評価との比較を通して自身のできることや課題を理解するとともに高めたい力を選択するために、単元の最初に使用する。チャレンジシートとは、PDCAサイクルに沿った項目を基に作成したシートである。項目は、P目標設定(改善策)、C振り返り(Dロールプレイの自己評価と他者評価表、アドバイス)、A改善(次の学習に向けて)を設定し生徒Aが学習内容を理解するために、毎時間の授業で使用する。項目シートとは、生活適応支援チェックリストの各項目を、一枚ずつ記入したシートである。「4できる」「3大体できる」「2少し難しい」「1難しい」の 카테고리別に分け、生徒Aができることが増えたという変化を理解するために、単元の最後に使用する。自分ノートの活用とは、生徒Aが他者のアドバイスを基に自身の行動を改善することができるようになるため、自身の行動の変容を視覚的に捉えながらPDCAサイクルに基づいた学習の中で自分ノートを効果的に使うことである。

①生活適応支援チェックリスト	②チャレンジシート	③項目シート
<p>各項目 4できる 3大体できる 2少し難しい 1難しい</p> 	<p>チャレンジシート</p> <p>P目標設定 (改善策)</p> <p>C振り返り (自己評価と他者評価表)</p> <p>C振り返り (アドバイス)</p> <p>A改善 (次の学習に向けて)</p> 	<p>項目シート</p> <p>相手のペースを断る時に早めに伝えたり言い方を考えたりできる。</p> 

イ 研究の内容

資料3 自分ノート

本研究では、生徒Aの目指す姿を【考える】【行動する】【生かす】の三つの要素で構成する(図2)。PDCAサイクルは1時間の学習を1サイクルとして行う。また、自分ノートをPDCAサイクルの各流れの中で使用する。【考える】では、イラストや動画等の提示を通して、生徒Aが自身の課題を理解し、改善するための目標を設定することができるようにする。【行動する】では、実生活と関連付けた場面設定のロールプレイを行うことを通して、目標を意識して行動できるようにする。【生かす】では、タブレット型端末の動画や自己評価と他者評価表、アドバイス等の提示を通して、生徒Aが自身の行動を振り返り、できたことや新たな課題に気付くと共に

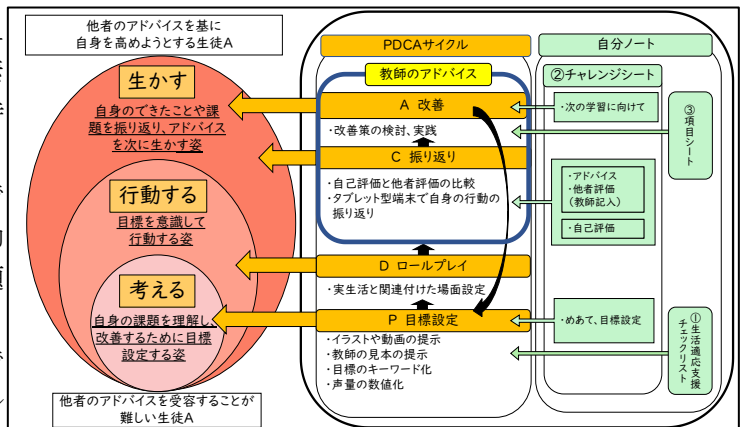


図2 研究構想図

【生かす】では、タブレット型端末の動画や自己評価と他者評価表、アドバイス等の提示を通して、生徒Aが自身の行動を振り返り、できたことや新たな課題に気付くと共に

アドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、次に生かすことができるようにする。

(3) 研究の実際

ア 実証授業の指導の考え方

生徒Aが生活適応支援チェックリストの中で、最も高めたい力として選択した「⑩自分の話だけでなく、相手の話も聞くことができる。」「⑤相手からの誘いを断るときに、早めに伝えたり言い方を考えたりすることができる。」の項目を基に単元を設定する。単元における目指す生徒像に近づくよう、教師がアドバイスを行う。その中で、生徒Aがアドバイスを基に自身の行動を振り返り、更に良くなる改善策を考えたり、実践したりして改善できるよう学習を進める。

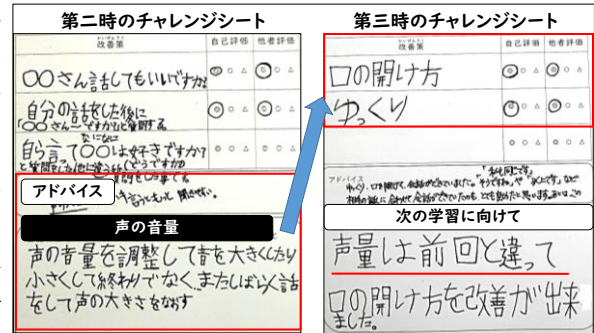
イ 実証授業の単元指導計画

単元 I	「会話をしよう (全4時間)」	
単元における 目指す生徒像	①相手の名前を呼んで話し掛ける、②相手に質問する、③相手が聞き取りやすい声の大きさと話す	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の仕方について自身の課題を考え、改善するための目標を設定することができる。 ・会話をしている際に、目標を意識して行動することができる。 ・自身の行動を振り返り、アドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、実践することができる。 	
配時	学習活動	手立て
1	生活適応支援チェックリスト⑩を選ぶ。 自身の会話の仕方について課題を理解する。(考える)	生活適応支援チェックリストや動画を提示する。
2	P: 目標を考え、チャレンジシートに書く。(考える) D: 目標を意識して行動する。(行動する) C: タブレット型端末で自身の行動を動画で振り返り、チャレンジシートに自己評価を書く。(生かす)	P: イラストを提示する。 D: 場面設定をする。 C: 他者評価と相手が聞き取りやすい声の大きさとについて、アドバイスをチャレンジシートに書く。
3	A: アドバイスを基に、更に良くなる改善策をチャレンジシートに書いたり、実践したりする。(生かす)	A: 改善策を検討する時間を設定する。
4	P: チャレンジシートを見て自身で目標を立てる。(考える) D: 目標を意識して行動する。(行動する) C: 自身で行動を振り返り、振り返りチャレンジシートに自己評価を書く。(生かす) A: 項目シートを移動し、改善できたことを確認する。(生かす)	P: 目標を考えるよう促す。 D: 場面設定をする。 C: 他者評価とリラックスすることについてアドバイスをチャレンジシートに書く。 A: 項目シートの移動や生活適応支援チェックリストに丸を加筆するよう促す。
単元 II	「相手の気持ちを考えて断ろう (全4時間)」	
単元における 目指す生徒像	①理由を伝える、②代案を伝える、③お礼を伝える	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相手からの誘いを断るときに自身の断り方について課題を考え、改善するための目標を設定することができる。 ・相手からの誘いを断るときに、目標を意識して行動することができる。 ・自身の行動を振り返り、アドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、実践することができる。 	
配時	学習活動	手立て
1	P: 生活適応支援チェックリスト⑤を選ぶ。 目標を考え、チャレンジシートに書く。(考える) D: 目標を意識して行動する。(行動する) C: タブレット型端末で自身の行動を動画で振り返り、チャレンジシートに自己評価を書く。(生かす)	P: 生活適応支援チェックリストや動画等を提示する。 D: 場面設定をする。 C: 他者評価とお礼の伝え方について、アドバイスをチャレンジシートに書く。
2	A: アドバイスを基に、更に良くなる改善策をチャレンジシートに書いたり、実践したりする。(生かす)	A: 改善策を検討する時間を設定する。
3	P: チャレンジシートを見て自身で目標を立てる。(考える) D: 目標を意識して行動する。(行動する) C: 自身で行動を振り返り、チャレンジシートに自己評価を書く。(生かす)	P: 目標を考えるよう促す。 D: 場面設定をする。 C: 他者評価と代案の伝え方についてアドバイスを書く。
4	A: 項目シートを移動し、改善できたことを確認する。(生かす)	A: 項目シートの移動や生活適応支援チェックリストに丸を加筆するよう促す。

ウ 単元 I 「会話をしよう」の指導の実際と考察

第一時では、自身の会話の仕方について課題を理解することをねらいとした。生徒Aの会話の様子をイラストで提示するとともに教師が見本を示すことで「一方的に話し掛ける」「急に話し掛ける」という課題を理解することができた。第二時から第三時では、自身の課題を改善するために目標を設定すること、目標を意識して行動し自身の行動を振り返ること、アドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、実践することをねらいとした。第二時のPでは、言葉のやり取りをイラストで提示することで、前時で理解した自身の課題を振り返り「相手の名前を呼んで話し掛ける」という目標を設定することができた。しかし「相手に質問する」という改善策を考えることは難しかった。そこで、掲示物や発問を精選し授業を進めるようにした。その後Dでは、作業中の人に話し掛ける場面を設定することで、相手の名前を呼んで話し掛け、対話を続けることができた。その後C、Aでは、タブレット型端末の動画や自己評価と他者評価表、アドバイスを提示することで、「声が小さい」という新たな課題を理解した。そして、次の学習に向けて検討する時間を設定することで更に良くなるために「声の音量を調整する」という改善策を考えることができた(資料4)。第三時のPでは、前時の学習を

振り返る場面を設定した。生徒Aは、チャレンジシートを見て「声が大きくなると相手に伝わらないので音量を攻略したい。」と述べた。そこで、相手に聞き取りやすい声の出し方をイメージできるように、アドバイスをしながら口の開け方のイラスト等を提示した。生徒Aは、これらのアドバイスを基に「口の開け方」「ゆっくり」と目標を設定することができた（資料4）。その後Dでは、生徒Aの作業学習と同じ場面を設定したことで、第二時の目標も加え、声の大きさや速度に気を付けて対話を続けることができた。また感想には、「音量は前回と違って」と前時の自身の行動と比較して改善できたことを記述した（資料4）。このことから、PDCAサイクルに基づいた学習活動の中で、チャレンジシートを活用したことは、アドバイスを次の学習に生かし更に自身の行動を改善する姿が見られたことから有効だったと考える。またPにおいて、アドバイスをしながらイラスト等を提示したことは、言葉の意味を理解することにつながり、自身で目標を設定する上で更に自身の行動を改善する姿が見られたことから有効だったと考える。D、C、Aにおいて、実生活と関連付けた場面設定やタブレット型端末の動画、アドバイス等を提示すると共に改善策を検討、実践する場面を設定したことは、ロールプレイの中で、目標を意識して行動し、アドバイスを受け入れて更に良くなる改善策を考え実践した姿が見られことから有効だったと考える。



資料4 アドバイスを生かし、次の目標設定の様子

第四時のC、Aでは、自己評価と他者評価表の中で自己評価よりも低い他者評価の項目に注目して、「緊張していた。改善を目指す。」と述べたため、アドバイスを生かして更に行動を改善できるよう、改めて会話をする場面を設定した。会話後には自ら他者評価を依頼し、「前回よりも大幅に上がって嬉しい。」と述べた。そして項目シートを「4できる」カテゴリーに移動させ「できることを増やせるように頑張ります。」と述べた（表3）。このことからPDCAサイクルを繰り返し行ったことは、アドバイスを受け入れて自身でできることが増えたことに喜びを感じ、更に自身を高めようとする発言が見られたことから有効だったと考える。

表3 C(振り返り)、A(改善)の様子(第四時)

目標	自己評価	他者評価	他者評価	振り返りでの生徒Aの発言
相手の名前を呼んで話し掛ける。	◎	○	◎	◎先生はもともと二つの評価が中間でしたが、その二つが二重丸に上がっています。前回よりも大幅に上がったので嬉しいです。話しをしていて楽しかったです。できることを増やせるように頑張ります。
相手に質問する。	◎	◎	◎	
相手に聞き取りやすい声の大きさ	◎	○	◎	

エ 単元II「相手の気持ちを考えて断ろう」の指導の実際と考察

単元IIでは、単元Iより更に相手の気持ちを考えて行動できるよう、相手からの誘いを断るときの自身の課題を理解し、改善するための目標を設定すること、目標を意識して行動し、自身の行動を振り返ること、アドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、実践することをねらいとした。第一時と第二時のPでは、生徒Aが相手からの誘いを断っている動画を提示することで、「お断りしただけでは相手に伝わらない。」と述べ、自身の断り方について課題を理解することができた。また、断られて不快な気持ちになった相手の表情をイラストで提示することで「理由、代案、お礼を伝える」という目標を自身で設定することができた。その後Dでは、「友達の誘いを断る場面」を設定すると、理由、代案、お礼を含めた断り方ができた。その後C、Aでは、自ら他者評価を依頼し、自己評価と他者評価表の各々の評価の比較やアドバイスを基に更に改善しようとする様子が見られた（表4）。

表4 C(振り返り)、A(改善)の様子(第二時)

改善策	自己評価	他者評価	振り返りでの生徒Aの発言	アドバイス	次の学習に向けて
理由を伝える	◎	◎	他者評価お願いします。Oでしたか。あっ誘ってくれて伝えるの忘れていた。	「誘ってくれてありがとう」と言えるのもっと良いと思います。	「誘ってくれてありがとう」を伝える事ができなかったけど、来週も頑張ります。
代案を伝える	◎	◎			
お礼を伝える	◎→○修正	○			

第三時から第四時では、相手の立場や状況を考えて断り方ができるよう、断る相手を友達から実習先の人に変更した。第三時のDでは緊張から無言になる時間があつたものの第二時で考えた更に良くなる改善策を生かして、断ることができた（表5）。その後C、A

表5 D(ロールプレイ)の様子(第三時)

生徒A	教師B	手立て
「誘ってくれてありがとうございます。今日はコンビニに買いに行ってもよろしいでしょうか。」	「お昼、一緒に食堂で食べませんか」	実習先で屋食の誘いを断る場面設定
「ありがとうございます。」	「いいですよ。また今度一緒に食べましょう。」	

では、単元Ⅰでは見られなかった、生徒A自身からアドバイス依頼し、代案を付加した、更に良くなる改善策を考えることができた(表6)。第四時のDでは第三時で考えた更に良くなる改善策を生かして代案、お礼を付け加えて「コンビニに行こうと思っていたのですが。来週なら食堂でも大丈夫です。ありがとうございます。」と断ることができた。その後、C、Aでは、自身の行動を思い出し、自ら他者評価を依頼する姿が見られた。感想には、第二時のアドバイスを含めた内容を記述したこと、次の学習に生かそうとしたことが分かる(資料5)。単元のまとめでは、できることが増えたという変化を理解できるように項目シートを移す活動を設定した。生徒Aは、「できなかったことができるようになった。今後は、難しいからできるに上げていく。」と述べた。このことから、PDCAサイクルを繰り返し行ったことは生徒Aが設定した目標を基に行動し、アドバイスを受け入れて振り返ることで自身の新たな課題を理解して、更に良くなる改善策を考え、実践する姿が見られたことから有効であったと考える。また、自分ノートを活用してアドバイスを生かし、更に自身の行動を改善しようとする姿や自身の行動を改善できたと実感している姿が見られたことから有効であったと考える。

表6 C(振り返り)、A(改善)の様子(第三時)

改善策	自己評価	他者評価	振り返りでの生徒Aの発言	アドバイス	次の学習に向けて
理由を伝える	◎	◎	誘ってくれてありがとうございますと言えましたが代案は言えなかった。アドバイスをください。	代案を具体的にいついつだったら大丈夫ですと伝えたいと思います。「コンビニに行こうと思っていたのですが」と言う良いと思います。	いついつだったら大丈夫ですと伝えたいと思います。〇〇さんのアドバイス「コンビニに行こう」と思っていたのですがと伝えたい方が良いと思います。
代案を伝える	○	○			
お礼を伝える	◎	◎			

誘ってくれてを友達かしましたがでも、ありが"とうございませうだけは伝えました

資料5 第二時のアドバイスを含めた感想(第四時)

(4) 全体考察

これまでの生徒Aは、教師等のアドバイスを受け入れる様子が見られなかった。しかし、単元Ⅰでは、自己評価と他者評価表で自己評価よりも低い他者評価の項目に注目し、アドバイスを基に自身の行動を更に改善しようとしたり、単元Ⅱでは、生徒A自身で自己評価と他者評価表を用いて自身の新たな課題を理解し、自己評価と他者評価表の自己評価の評価を修正するとともにアドバイスを基に更に良くなる改善策を考え、実践したりする姿が見られた。更に、自ら他者評価やアドバイスを依頼することもできた。これは、PDCAサイクルを繰り返した学習において、アドバイスを基に自身の新たな課題を見出し、それを改善するための目標を設定するとともに、実践することを通して、成就感を味わうことができたためではないかと考える。また、自分ノートを活用して、自身の行動の変容を視覚的に捉えることで、自身の高まりを実感し、アドバイスの有用性について理解することができたためではないかと考える。授業前と後に実施した生活適

表7 生活適応支援チェックリスト【抜粋】での変容

生活適応支援チェックリスト【抜粋】		令和4年6月・10月実施 10月は●、6月は○で記載							
		4:できる 3:大体できる 2:少し難しい 1:難しい							
項目	4	3	2	1	項目	4	3	2	1
1 人に何かしてもらった時にお礼を言うことができる。	○				13 感情のコントロールができ、落ち着いて過ごすことができる。	○			
2 他の人と協力しなければならぬ場面、協力することができる。		○			14 心が落ち着かないときやストレスが溜まったときに、落ち着ける方法をとることができる。				○
3 相手と意見が対立した時に、ゆずることができる。		○			15 自分の強み・特徴(〇は得意だけ〇〇は難しい)を知ったうえで行動できる。				○
4 禁止されていることを守ることができる。			○		16 振の仕事や任された仕事に責任をもって取り組むことができる。				○
5 相手からの誘いを断るときに、早めに伝えたり言い方を考えたりすることができる。				●○	17 自分の話だけでなく、相手の話も聞くことができる。				●○
6 相手の話を最後まで聞くことができる。				○	18 分からないことを自分から質問することができる。				●○

応支援チェックリスト【抜粋】からは、生徒Aが自身を高めようとした姿を、授業前後の比較から認めることができる(表7)。このことから、知的障がいのある生徒Aが他者のアドバイスを基に自身を高めようとする姿を目指すために、PDCAサイクルと自分ノートを活用したことは有効であったと考える。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- PDCAサイクルに基づいた活動を繰り返し設定したことで、生徒Aが他者のアドバイスを基に、自身の行動を振り返り、改善しようとする姿を引き出すことができた。
- 自分ノートの各シートを単元の各活動の中で使用するよう促したことで、生徒Aが自身の行動の変容を視覚的に捉えることができた。

イ 今後の課題

- 授業以外でも自分ノートを活用できるように、その活用方法について検討する。

<参考文献>

- ・宮田 愛(2020)『児童・生徒向けTTST社会にはばたくための対人関係トレーニングサポート集初版』p.18
ジアース教育新社

【添付資料】

○ PDCAサイクルの具体

目標設定	P	<p>単元Ⅰにおいて、生徒Aが自身の会話の仕方について課題を理解できるように提示したイラスト。</p>  <p>相手の表情のイラスト</p>  <p>会話のやりとりのイラスト</p>	
		<p>単元Ⅰにおいて、生徒Aが相手に聞き取りやすい声の大きさで会話ができるように提示したイラスト。</p>  <p>こえのメーター</p>  <p>アプリ名：こえのメーター 販売元：PERMANENT CREATIVE MIND 【160円】</p>  <p>口の開け方のイラスト</p>	
		<p>単元Ⅱにおいて、目標設定ができるよう目標をキーワードで提示した板書。</p>  <p>(単元Ⅱ)</p> <p>ロールプレイ場面の写真</p> <p>目標のキーワード化</p>	
ロールプレイ	D	<p>単元Ⅰにおいて、対話をしている状況を意図的に仕組んだ場面設定。</p> <p>単元Ⅱにおいて、実習先と同じ作業を仕組み、実習先の人からの誘いを断る場面設定。</p>	<p>※ 会話をしている相手に話しかけている生徒A</p> <p>※ 実習先役の職員からの誘いを断っている生徒A</p>
		<p>会話をしている相手に話しかける場面設定（単元Ⅰ）</p> <p>実習先の人からの誘いを断る場面設定（単元Ⅱ）</p>	
振り返り・改善	C	<p>自身のできたことや課題を振り返ることができるよう、タブレット型端末の動画とアドバイスを提示。</p> <p>できたことを実感することができるよう、項目シートを移動する様子。</p>	<p>※ タブレット型端末を用いて振り返る生徒A</p> <p>※ 教師が記入しているアドバイスに注目している生徒A</p> <p>※ 項目シートを移動している生徒A</p>
		<p>タブレット型端末を用いて振り返る様子</p> <p>アドバイスを見て、新たな課題に気付く様子</p> <p>項目シートを移動する様子</p>	

○ 自分ノートの具体

項目	自己評価				他者評価	
	1できる	2がいた いできる	3少し難 しい	4難しい	1できる	2がいた いできる
1 人に何かをしてもらった時に、お礼を言うことができる。						
2 他の人と協力しなければならぬ場面でも、協力することができる。						
3 相手と意見が対立した時に、ゆずることができる。						
4 禁止されていることを守ることができる。						
5 相手からのすそいを断る時に、早めに伝えたり、言い方を考えたりすることができる。						
6 相手の話を最後まで聞くことができる。						
7 相手の気持ちを考えたりすることができる。						
8 場にふさわしい言葉遣いができる。						
9 他者と適切な距離をとることができる。						
10 冗談を聞いて受け流したり、笑ったりすることができる。						
11 自分で時間を考えて行動することができる。						
12 自分の気持ちや考えをうまく相手に伝えることができる。						
13 感情のコントロールができ、落ちついて過ごすことができる。						
14 心が落ち着かないとき、ストレスが溜まったときに、落ち着ける方法を考えることができる。						
15 自分の強みや特性(〇〇は得意だけど、〇〇は難しい)を知りたくて行動できる。						
16 係の仕事や任された仕事に責任を持って取り組むことができる。						
17 自分の話だけでなく、相手の話も聞くことができる。						
18 自分からいいことを自分から質問することができる。						
19 人前で話をするることができる。						
20 自己紹介ができる。						
21 自分の長所と短所を説明できる。						
22 他人の長所を見つけることができる。						
23 自分にとって困難なこと(難しいこと)を説明することができる。						
24 自分にとって必要な支援(手助け)を相手に伝えることができる。						

【生活適応支援チェックリスト】

生徒が自己評価や他者評価との比較を通して自身のできることや課題を理解するとともに高めたい力を選択するために、単元の最初に使用する。

チャレンジシート		
めあて	4月10日17日	
実習先の〇〇さんからの誘いを理田代案お礼を伝えたい。		
改善策	自己評価	他者評価
理由を伝える。	◎ ○ △	◎ ○ △
代案を伝える。	◎ ○ △	◎ ○ △
お礼を伝える。	◎ ○ △	◎ ○ △
アドバイス 「いつだって大丈夫ですと、伝え方が悪いと思います。」 「〇〇さんか言っていたアドバイス「コンビニに行こうと思っていたのですが...」と伝え方が悪いと思います。		

【チャレンジシート】

生徒が学習内容を理解するために、毎時間の授業で使用される。

相手からのすそいを断る時に早めに伝えたり言い方を考えたりできる。

【項目シート】

生徒ができることが増えたという変化を理解するために、単元の最後に使用する。